



吉田城址 本丸 堀の発掘調査 池田輝政が築いた石垣に、例の無い基礎構造

豊橋市文化財センターでは、吉田城の保存と活用にむけた基礎資料を得ることを目的に、本丸の堀の発掘調査を行っています。下記のような成果がありましたので、市民向けの現地説明会を開催します。

■現地説明会

日 時：3月4日(日) 10:00~11:30、14:00~15:30

※この時間内で随時実施。小雨決行

会 場：豊橋公園 本丸広場集合

内 容：調査員による説明、出土品の展示など

問い合わせ：文化財センター TEL 56-6060

※当日は、美術博物館 TEL 51-2882

■今回の調査

調査期間：平成 30 年 2 月 1 日～3 月 9 日

調査面積：70 m²

調査の成果：

豊臣秀吉の重臣である池田輝政が、天正 18 年(1590) ごろに築いた石垣の基礎を発掘調査しました。通常の石垣とは異なる、ほかに例の無い基礎構造が見つかり、初期の城の石垣の構造を考えるうえで重要な知見を得ることができました。

■報道機関向けに、現地で解説を行います■

著名な城郭研究者が、今回の調査成果を報道機関向けに解説します

日 時：2月28日(水) 11:00~11:30

場 所：発掘調査現場 ※本丸鉄櫓と豊城中学校の間の堀底

解 説 者：中井 均さん(滋賀県立大学教授)

加藤理文さん([公財]日本城郭協会理事)

【問い合わせ先】

教育部 美術博物館 文化財センター

主任学芸員 岩原 剛 ☎56-6060

調査の概要

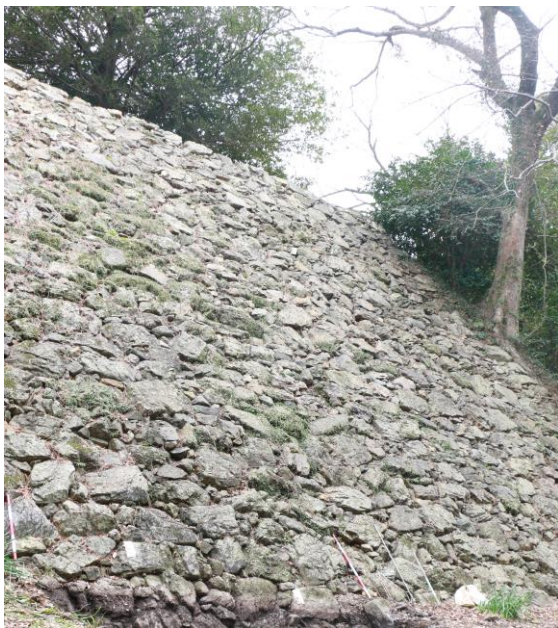
位置: 吉田城本丸西側の堀、復興鉄櫓と豊城中学校の間挟まれた堀底にあたります。ここには、池田輝政が天正18年(1590)に吉田城主になったときに築いた石垣が現存しています。

石垣の構造: 地元の石材を使って積み上げられています。自然石をほとんど加工せずに積み上げたもので、城の石垣としては古い特徴を示す「野面(のづら)積み」です。

調査前の現状で、長さは東西17.6m、南北36m、高さは11.6mあります。「高石垣」と呼べるものです。

石垣の性格: 吉田城のほかのところにある石垣は、すべて江戸時代に積み直されたものです。安土桃山時代に当たる鉄櫓下の石垣は、城に石垣が積極的に導入されはじめたころのもので、愛知県下でも古い時期の石垣です。池田輝政は、豊臣秀吉の命で吉田城主になりましたが、関東の徳川家康が東海道を攻め上ることを防ぐ重責を担っていました。輝政は吉田城を改修する際に、内外に威信を示す必要があり、視覚的効果を重要視してこうした高石垣を築いたのでしょう。

今回の成果: 普段は埋もれている石垣の基礎を確認したところ、石垣のために堀底をさらに1段深く掘り下げた「掘り方」を設け、石を積むときに外側からも土を叩き締めながら詰めることで、強固な基礎構造をつくっていました。通常は、「胴木」を置いてその上に石垣を積み上げるのが一般的で、胴木を持たない今回の構造は知られていません。



池田輝政が築いた石垣

野面積みの石垣です。豊臣秀吉の重臣・池田輝政が城主となり、吉田城を改修した時に設けられました。

城内最高の高さを誇る高石垣で、豊川方面からの視覚的効果を意識して築かれました。



石垣の基礎構造

石垣の基礎は、掘り方を設けて外側に空間をつくり、その中を石交じりの土を詰め、強くたたき締めて強固に仕上げていました。軟弱な地盤に対応するためでしょうか。白い太線が掘り方の断面の形です。